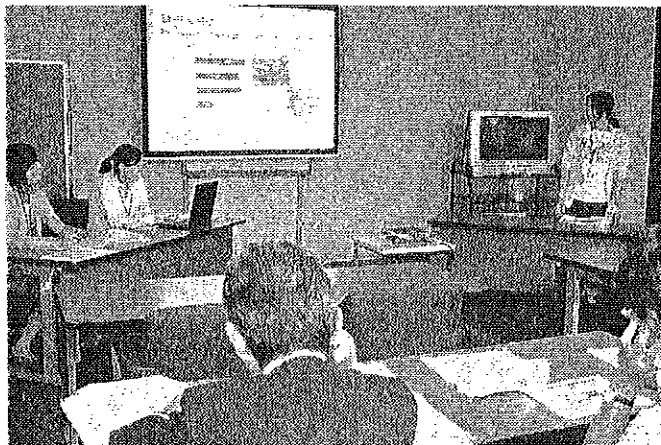


受賞ポスターは同館「ロビー」に掲示されているほか、ホームページにも掲載されている。

(http://www.hmh.pref.hokkaido.jp/)



札幌ドームの職員に施設の改善案を緊張した面持ちで発表する道都大の学生

## 利便さ学生視点で

札幌ドーム 道都大生が改善策

道都大(北広島市)のスポーツビジネス体験講座を受講する学生

が十九日、講座の一環で、札幌ドーム(札幌市豊平区)に対し、子

供からお年寄りまで利用しやすい施設になるよう、案内板増設や階段両側への手すり設置

などを求める改善策を提案した。同講座では、札幌ドームで二十五日に行わ

れる北海道日本ハム西武戦を「道都大デー」と銘打ち、試合開始から終了までの全イベントを学生自身が企画、運営する。これに向けて、ドームの施設としての課題を学生が調べた。この日は学生七人

がドーム内の会議室で、職員を相手にプレゼンテーションを行った。

改善策は「札幌ドーム全体の地図の案内板を増やす」「階段両側に手すりをつける」「高齢者向けの『優し〜と席』の認知度を高める」「車いす席と通路を仕切る」など十項目。学生たちが七月の北海道日本ハムの公式戦で、来場者に実施したアンケート結果をもとにまとめた。

アンケートでは、一般席で75%が「入退場時に迷う」と回答。「階段が急こう配で歩きにくい」などの答えも多かった。車いす席では、イベント終了後、一般利用者と混雑してエレベーターに乗れないなどの不満を持つ人が約70%に上っていた。

ドームの北林勝総務課長は「学生の視点で、改善策を提案してもらい感謝している。実現可能なものは改善したい」と話した。

(後藤敦)